

平成 31 年度 京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）未修者特別選抜

口述試験（配点：200 点満点）

【出題趣旨】 午前に行われた口述試験では、澤康臣『グローバル・ジャーナリズム——国際スクープの舞台裏』（岩波書店、2017 年）と日本弁護士連合会「人権のための行動宣言 2014」の各々一部を、また午後に行われた口述試験では、里見清一『医学の勝利が国を滅ぼす』（新潮新書、2016 年）、同『医師の逆説』（新潮新書、2018 年）および同『偽善の医療』（新潮新書、2009 年）の一部についての要約を、それぞれ資料として提示し、それらを題材にした試問を行うとともに、出願書類に関する質疑を行い、出願者の論理的思考・判断力、理解・分析力及び表現力等を判定した。

【採点基準】 資料の内容が正確に理解できるか、論理的に物事を考えることができるか、問題を発見しそれを的確に分析する能力を有しているか、質疑への対応が適切にできるか等の点で総合的に評価を行った。